



華麗なる図書館利用者のための

Cool Librari

# カール・グラー

講座

## カジのうら若き青春黙示録

文/カジ

『ポンキッキ』ってなんですか？

『ポンキッキ』、正確には『ひらけ！ポンキッキ』は、フジテレビ系列で1973年から放送された子ども向け番組。何がひらけ！なのかは不明だが、人間のお姉さん、緑の怪獣ガチャピン、赤色のムックが数々のコーナーでなんやらはしゃいだりする。歌のコーナーでは大物歌手の楽曲を使用するなどクオリティは高い。時代とともに『ポンキッキーズ』『ポンキッキーズ21』などとタイトルは少しずつ変わるが、番組内容は継承。その後、地上波では2007年に番組終了し、BSへと移行している。

### 「面倒臭いので 取っちゃってくだわい☆」

と即答。いやいや、待って待って、そんなに簡単に決めないで。こうしてあっけなく翌日の手術が決定。この後カジは一体どうなってしまうのか？ 次回へつづく。

## 「元気!! 勇気!! ポンポポンキッキーズ☆」

『ポンキッキ』は幼少期の憧れであり、平日朝8時からの30分、いや正確には24分は至福の時間であった。音楽と映像、緑と赤のアレの茶番に僕らは魅せられた。特に超万能型の緑はどんなスポーツをやらせてもハイレベル。海に潜ったり空を飛んだり、まるでその道のプロが中に入ってるかのような超人ぶりだ。

幼い頃のカジももちろんポンキッキだった。しかも並のポンキッキっ子ではなく、重度のソシだ。ポンキッキ観たさに幼稚園の卒園式に遅刻したぐらいなのだ。しかし小学校に入ると朝家を出る時間が早くなり、ポンキッキを観ることができなくなっていた。ただ、ポンキッキへの思いは変わることなく、平日のお休みはかぎりつきで観ていた。

小学3年の夏休み前、その日は朝から何となくお腹が痛く、学校を休みたいとおかんに告げる。おかんはしぶしぶ了承し、8時前に学校に電話を入れていた。そして8時を迎え、緑のアレやお姉さんのハッスルぶりなど久々のポンキッキタイムを十分に堪能したのであった。

ポンキッキを観終わった後、おかんと町医者に行くことになった。医者嫌いのカジであり、学校を休むことが確定した時点で腹痛はほとんど治まっていたのだが、ポンキッキを観れたのでまあしょうがない。

診察の順番が来て、いろいろ質問された後、寝転がっての触診。先生がお腹の何ヶ所かを押しながらかい痛いかどうかを確認していく。元々何となくの腹痛だったので、これといって痛い部分もなかったのだが、なぜか右下腹部だけ強めに押され、思わず「痛いです」と漏らしてしまっただ。それを聞いて先生は「盲腸の疑いがあります」と言い、大きい病院での診察を勧めた。待つて待つて、正直そんなに痛くないんだけど、その足で総合病院に移動し、改めて診察を受ける。今度は右下腹部を重点的に押され、痛いかどうかをしきりに確認してくる。そりゃそんだけ押されれば痛い気もするわってことで「痛いです」と先生に告げる。診察を終えた先生は「恐らく盲腸です。薬でも症状は抑えられますが、手術して取ることもできます。どうしましょうか？」とおかんに問う。

おかんは何の迷いもなく

